

「たからばこ」



～第2層生活支援コーディネーター向け第8号～

地域の支え合い情報紙「たからばこ」は、地域で頑張っている第2層生活支援コーディネーターの皆さんに向け、第1層協議体（関係者ネットワーク会議）の内容や各地区での活動の様子などを中心に紹介し、地域福祉活動の推進に役立てていただくために、年数回程度の発行を予定しております。

今回は、1月に行った令和6年度第2回関係者ネットワーク会議の報告をお伝えします。



今回の関係者ネットワーク会議は、どんな内容だったの？



令和6年度 長岡市生活支援体制整備事業 活動計画

中期的な取り組み（1～3年）

ニーズ・資源把握

- ・生活支援サービス集
- ・地域資源マップ

住民主体の活動支援

- ・お宝発表会
- ・協力したい・できる人の活用方法の検討

その他

- ・福祉法人との連携



長岡市高齢者のための生活支援サービス集について

『ツカオーレ！生活助かるブック』という名称に！



掲載内容：現在ある多くの高齢者の生活を支えるためのサービスで、介護保険サービス以外（原則）のものをまとめたもので、地域の皆さまや事業者等からいただいた情報をもとに作成し、あくまでも「情報提供」を目的とした。

主な対象者層：主に「支援者」となる方にみていただき、相談者に情報提供をしたり、繋いでいただくことを想定した表現内容に。

発行予定：令和7年3月中

その他：○市ホームページ掲載、コミセン、地域包括などにも情報提供予定。
○高齢者自身が見ると理解しにくい内容もあり、今後は、対象を拡大していくなかで、掲載サービスも増やしながらバージョンアップしていく予定。





社会福祉協議会の活動報告・地域の情報提供について



長岡市社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とする公共性と公益性の高い団体として、地域住民及び関係者等との協働により『ともに生き、ともに支え合い、心のかよいあう地域社会の実現』を目指す。第3次活動推進計画～地域・生活支援強化方針～実施事業の中で、「住民主体の福祉活動の推進」について触れ、ふれあい型食事サービスや福祉送迎サービス、ボランティア銀行の見直しをしている。「宮本地区」では、市のモデル事業の一環として、「相乗りタクシー」の取組を行っている。

第1層コーディネーターが、地域活動をされている方々を訪問。「出逢った地域資源（お宝）」として紹介や啓発に役立ててもらえるものを作成中。

出逢った長岡の地域資源(お宝)



チームオレンジについて



認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。チームオレンジは「認知症と思われる初期の段階から、心理的・生活面の支援として地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近なニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者を繋ぐ仕組み」をいう。

当市では、チームオレンジと企業等への啓発の2本立てで構成することを検討。



社会福祉法人や企業・団体との連携について意見交換



「深才では、地元の医療・福祉団体とイベントを開催し、地域との交流をしながら、互いの理解に繋がった。学生の協力によりスマホ教室なども実施し、新たな形の「担い手育成」にもなる」「地域外にも様々な特技や「やれる」ことのある人はいる。そういう人と繋がれる仕組みが必要」「宮本は、懇談会に地域の施設の参加があり、そこから協働で様々な取り組みができた」「ケアマネなども、買い物支援などの課題を感じている。」「担い手不足と謝礼は今の状況から見直し必要」など多くの意見交換がされた。

市としては、来年度以降は、「企業・団体の地域貢献、ニーズとのマッチングのきっかけづくり」に取り組んでいきたい。

